真夜中とよぶにはまだはやい

小高知子

登場人物

〈1〉社員1　女性。
社員2　女性。
社員3　男性。

〈2〉彼女
彼氏

〈3〉老婆
店員

※ 登場人物はみな関西弁らしき言葉で話すが、上演においてはこの限りでない。

本日午後、市内全域において大規模停電が発生。
いまだ復旧のめどはたっておらず、
電力会社ならびに関係各所は原因解明を急いでいる。

〈1〉

真夜中とよぶにははやすぎる。
夜がその本領を発揮するずっと前。
紙で貼ったような、月は白。

ここは印刷会社。
受付カウンター、パソコンが数台と印刷の機械が並ぶ。
社員1、社員2、パソコンを前に座っているが、その画面は真っ暗。よく見ると他の機械もすべて止まっている。
窓の外のぼんやりした明るさが室内にのびている。
まんじりともしない機械に囲まれて、ふいに、

社員1　死んだ。
社員2、え、
社員1　死んだ。
社員2　なに、
社員1　今。
社員2　知らん。
社員1　死んだかな。
社員2　知らんて。
社員1　今。
社員2　（こたえない）
社員1　なあ、
社員2　なに。
社員1　なあって、
社員2　だからなにって。

社員１　あいつ。
社員２　言い方。
社員１　あいつでいいやろ。
社員２　（笑う）
社員１　え、いいやろ。
社員２　そうやな。
社員１　なあ。
社員２　うん。
社員１　どう思う。
社員２　なにが。
社員１　今。
社員２　知らんって、もう。
社員１　言ってたやん、死ぬって。
社員２　死んじゃいそうって言ってんで。
社員１　そうやっけ。
社員２　もう死にたくなっちゃうって。
社員１　きっしょ。
社員２　（笑う）
社員１　えー、
社員２　うん。
社員１　きっしょ。
社員２　ほんまに。
社員１　なに考えてんねやろ。
社員２　さあ。
社員１　あれか、
社員２　え、
社員１　考えてへんのか、なんも。
社員２　かもな。

社員２、デスクにあったボールペンを雑に手にとり、ふり回したりしてあそぶ。

社員１　本能のまま。欲望のまま。
社員２　うん、
社員１　どういう神経してんの、ああいうひとって。
社員２　さあ。
社員１　死んだらいいのにな。
社員２　え、
社員１　言ってるだけじゃなくて。ほんまに。

社員２、ボールペンをデスクに投げるようにして落とす。

社員１　な。
社員２　てかさ、
社員１　うん。
社員２　あれ、いけると思ったんかな。
社員１　え、
社員２　ちょっとでも。なんていうの、あたしがさ、
社員１　オッケーするって？
社員２　いや、オッケー、オッケーっていうとあれやけど、
社員１　うん、
社員２　な。
社員１　どうなんやろ。
社員２　だっていくつあのひと、五十、
社員１　え、もっといってるやろ。六十代じゃない、あれ。
社員２　もし。もしもやで、仮にあたしが、その、
社員１　好意を示したとして？
社員２　もし、うけいれたとして、
社員１　うん。
社員２　どうするつもりやったんやろ。あのあと。
社員１　たしかに。
社員２　勃つんかな、六十代って。
社員１　そこ？
社員２　したことある？

社員１　六十代と？
社員２　うん。
社員１　ない。
社員２　あたしもない。
社員１　ないやろ、普通。
社員２　あー、
社員１　なに。
社員２　待って。
社員１　なによ。
社員２　想像した。
社員１　自分で言いだしたんやん。
社員２　きっしょ。
社員１　うん、
社員２　むかつく。
社員１　むかつくんや。
社員２　死んだらいい。
社員１　（社員２を見る）
社員２　まじで。
社員１　（こたえない）
社員２　な。
社員１　あれやな、
社員２　え、
社員１　言いたかったんやな、きっと。
社員２　なにそれ。
社員１　伝えたかってん。たぶん。
社員２　なにを、
社員１　あんたとさ、どうにかなりたいとか、そういうんはとりあえず頭になくて、とにかく伝えたい、的な。
社員２　中学生か。
社員１　どうする、
社員２　なにが。
社員１　また来たら。
社員２　なにしに、
社員１　だからコピーとりにじゃないの、いつもみたいに。
社員２　もうコンビニ行けよ。
社員１　指名されるで。
社員２　出てや、代わりに。
社員１　ＦＡＸって送れますかって聞かれるで。
社員２　コンビニ行けってだから。
社員１　あれさ、
社員２　うん。
社員１　いつからやっけ、来るようになったん。
社員２　さあ。
社員１　結構長いよな。
社員２　もうおぼえてない。
社員１　来るで、
社員２　え、
社員１　また。今までだって来ててんから。

社員１、社員２がむっつりと黙り込んだので、

社員１　でも死んだからな。
社員２　え、
社員１　さっき。知らんけど。有言実行で。

しばし間。
社員２、おもむろに社員１のデスクのひきだしをあけ、たばこの箱とライターをとり出し、たばこに火をつける。

社員１　あー、
社員２　なに。
社員１　あたしの。
社員２　いいやん、一本くらい。
社員１　やめたんじゃなかったん。

社員２　やめたよ。
社員１　吸ってるやん。
社員２　やめるのやめたの。
社員１　なにそれ。
社員２　いいねん、一本くらい。
社員１　いいの。
社員２　え、
社員１　いいの。ほんまに。
社員２　（こたえない）
社員１　あ、
社員２　え、
社員１　なに、
社員２　なによ。
社員１　気にしてる、もしかして。
社員２　なにが。
社員１　気にしてるな、さては。ちょっと。
社員２　べつに、
社員１　ほんまに死んでたらどうしよとか思ってんねや。
社員２　思ってへんよ。
社員１　えー、
社員２　なに。
社員１　可愛い。
社員２　うるさい。
社員１　可愛いなあ。
社員２　思ってへんってだから。
社員１　いい子やな。
社員２　うるさい。
社員１　いい子でちゅねー。
社員２　（たばこを指して）吸ったら？　あげるわ。
社員１　あたしのや。
社員２　（笑う）
社員１　てか、

社員２　え、
社員１　行ってへんの。
社員２　なにが。
社員１　病院。
社員２　ああ。
社員１　彼氏には？
社員２　（こたえない）
社員１　なんで、
社員２　言わなあかん？
社員１　え、
社員２　これ。言わなあかんこと？
社員１　（しばらく考えて）さっさと病院行きや。とりあえず。
社員２　二本目も、
社員１　使ったん、
社員２　あのあと。
社員１　で。
社員２　うん、
社員１　はよ行きって、だから。
社員２　いや、だって、
社員１　うん、
社員２　結果分かってんねんから行く必要ないやん。
社員１　そういう問題じゃないやろ。
社員２　あれさ、
社員１　え、
社員２　こうじっと見てたらな、
社員１　うん。
社員２　消えたりせえへんかな、と思って。
社員１　どういう仕組みや。
社員２　すぐには無理やで、
社員１　うん、
社員２　でも、こうじっと見てたら、いつか。いつの間にか。
社員１　消えてたり？

社員２　うん。
社員１　するか。
社員２　もとに戻ってたり。
社員１　せえへんて。てか、
社員２　え、
社員１　意味ないやろ。そんなとこが消えても。

煙が細くのびている。
間。
社員３、やってきて、

社員３　あれさ、
社員１　わ。
社員３　え。
社員１　いや、急やったから。すみません。
社員３　あれ、
社員１　はい。
社員３　冷蔵庫。あれやばい。
社員２　え、
社員３　ガリガリ君ががんばってるわ、今。
社員１　ガ、え、誰ですか。
社員３　アイス。ガーリガリくうん。
社員１　ああ。
社員２　え、なにそれ。
社員１　あったやん。お客さんからもらったやつ。
社員２　知らん。
社員１　あったって、結構前から。
社員３　あれ誰、食べてないの。冷凍庫にいっぱいあんねんけど。
社員２　えーあたし知らんかった。
社員３　冷蔵庫の温度、ガリガリ君でギリギリ保たれてる、今。
社員１　やばいやん。
社員２　中、飲みもん以外なんか入ってましたっけ。
社員３　あれ、
社員２　はい。
社員３　やめたんじゃなかったん。
社員２　やめました。
社員３　吸ってるやん。
社員１　たばこやめるのやめたんですって。
社員３　なにそれ。
社員１　あほでしょ。
社員３　バレたら怒られるで。こんなとこで。
社員２　そうなんですけど、
社員３　なに。
社員２　行けないんです、いつも吸ってるとこ。
社員３　なんで。
社員２　あかないから。ドア。
社員３　だからなんで。
社員２　電子ロック。
社員３　あっこって非常階段やろ。
社員２　一応そうですね。
社員３　あかんやん。
社員２　非常時に使えないっていう。
社員３　意味ないやん。
社員１　まだ誰かいます、
社員３　え、
社員１　ほかのフロア、とか。
社員３　いや。もう誰も。
社員１　そうですか。
社員３　うん、
社員１　はい。
社員３　うん、
社員２　はい。
社員３　うん、
社員２　え、

社員３　え。
社員２　えって、え。
社員３　なに。
社員２　はじめないんですか。
社員３　うん。
社員１　なんで、
社員３　金庫。
社員２　はい。
社員３　金庫。も。
社員２　も？
社員３　うん。
社員１　あ、
社員２　え、
社員１　ああー、
社員３　うん、
社員２　え、なに。
社員１　そっか、
社員３　そうやねん。
社員２　え、なによ。
社員１　一緒やん。
社員２　え、
社員１　非常階段。
社員２　うん、
社員３　あかへんねやろ、今。
社員２　はい。
社員３　だから一緒、
社員２　あ。
社員３　金庫も。
社員２　あー、

あとが続かず、なんとなく間。

社員１　やばい、
社員２　え、
社員１　ですよね、これ。
社員３　うん。
社員１　うんって、
社員３　やばいよ。普通に。
社員２　鍵。
社員１　え、
社員２　鍵は。ありますよね。それなら電子ロック関係ないやん。
社員１　あそっか。
社員３　その鍵を入れてるキーボックスが電子ロック。
社員１　あー、
社員３　うん。
社員２　まじか。
社員３　まじやね。
社員２　え、やばい。
社員３　うん、
社員２　やばくないですか、これ。
社員３　だからそうやって。
社員２　え、どう、
社員３　うん、
社員２　します、
社員３　うん、
社員２　どうしましょう、
社員３　そうやなあ。
社員１　これってこのビルだけですか。
社員３　いや、たぶんこのへん全部。
社員１　ああ、
社員３　コンビニも看板消えとった。
社員１　そっか。
社員３　まあ、
社員１　はい。

社員３　待つ、
社員１　うん、
社員３　しか、ないよね。
社員１　ですね。
社員２　待つ。
社員１　うん、
社員２　待ったところでどうにかなんの。これは。
社員３　さあ。
社員２　え、
社員３　そんなん俺知らん。
社員２　えー、
社員３　だからどうなるか分からんから、
社員１　待つしかないやんって。
社員３　そういうこと。
社員２　でも、
社員１　なに。
社員２　大丈夫、これ。
社員１　なにが。
社員２　だって変じゃない、
社員１　だからなにが。
社員２　あたしら三人、こんななんもできひんのに、残ってて、
社員１　まあ、
社員２　先輩なんか部署もちがうのに、なんていうの、明らかに、
社員３　不自然。
社員２　はい、
社員３　まあ、そうやわな。
社員２　どうすんの、怪しまれたら。
社員１　それは、
社員２　これまでのだって。
社員１　そうやけど、
社員２　なにがきっかけでバレるか分からんで。
社員１　そうやな。

社員２　どうすんの。
社員１　いや、でも、
社員２　うん、
社員１　え、
社員２　なに。
社員１　帰る気、逆に。この状況で。
社員２　だって、
社員１　うん、
社員２　いや、だって、
社員１　だって今現に金庫のお金多いんやで。税込四十九万五千円。誤差にしてはでかすぎる。どうやってごまかすねん、こんなん。
社員２　そう、
社員１　なあ、
社員２　やけど。

一同、どうするべきか分からず、でもどうするべきかを考えるのも嫌になって黙り込む。
見慣れた機械が、ただ止まっているというだけで得体の知れないいきもののように思える。
社員１、おもむろに窓際まで歩いていって窓を開ける。
社員１、持っていたたばこに火をつける。
社員２、追いかけるように窓際へいき、社員１と並んで窓の外を見る。
社員１、社員２にむかってたばこの箱を振ってみせる。
社員２、首を振って、いらないと示す。
社員１、社員２、窓の外の薄闇を眺める。

社員２　冗談みたいやな。
社員１　え、
社員２　（顎をもちあげて外の様子を示す）
社員１　ああ、

社員２　帰られへんもんな、
社員１　え、
社員２　今会社出たところで。どうせ。
社員１　そうやな。

社員３、近くの席に座って、社員１、社員２越しに窓の外を眺めている。

社員２　ばち、
社員１　え、
社員２　当たったんかな。これ。
社員１　なに、
社員２　わるいことしてきたから。これからもしようとしてるから。
社員１　あほらし。
社員２　だからかな、
社員１　嫌い。そういう考え方。
社員２　なんで、
社員１　だって、じゃあ被災地とかのひと、どんだけわるいことしてんってはなしやろ。
社員２　（ちょっと笑ってしまうけど）そうか。
社員３　ちなみに、
社員２　え、
社員３　俺、ずっとやから。
社員２　なんですか、
社員３　これ。やってんの。入社してすぐ。昔っから。
社員１　えー、
社員３　お前らのこと巻き込んだんも俺やし、
社員２　まあ、そうですけど。
社員３　最初はな、
社員２　はい、
社員３　どきどきした。
社員１　そりゃあ、ね。
社員３　心臓ぶっ壊れるかと思った。
社員２　あたし達だってそうですよ。
社員３　自分がとんでもない人間になったみたいで。
社員２　ああ、
社員３　俺はどうなってしまうんやろうって、
社員２　はい、
社員３　俺みたいなとんでもない人間には、このあとどんなことが待ってるんやろうって、
社員２　どんな、
社員３　ん、
社員２　ばちを受けたんですか。
社員３　（こたえない）
社員２　（聞いたことをすこしだけ後悔する）
社員３　すくなくとも、
社員１　はい、
社員３　こんなもん、ばちに入らんな。
社員１　強い。
社員３　この会社がぶっ潰れて、
社員２　はい、
社員３　はじめて後悔するんかもしれへん、俺は。
社員２　（こたえない）
社員３　ばちが当たってようやく、悔いるのかもしれない。自分のしたことを。
社員１　それは、
社員２　ばち、じゃない気がしますけども。
社員１　自業自得っていうんですよ、そういうの、たぶん。
社員２　（笑う）
社員３　この程度のネコババで潰れる会社、そもそも経営不振や。
社員１　なんちゅう言い草や。
社員３　このくらい厚かましくないとサラリーマン続かへん。

可笑しさと悲しさがちょうど半分ずつ。
一同、それをわけあうような、間。
社員1、短くなったたばこを窓から投げ捨てる。

社員2　（咎める意味の）あー、
社員1　残念。
社員2　え、
社員1　死にぞこなったかもな。
社員2　なに、
社員1　あいつ。
社員2　えっ、
社員1　あいつ。
社員2　（こたえない）
社員1　思わんやろ。死のうなんて。こんな冗談みたいな日に。

社員1、窓を閉め、自分のデスクに戻る。
社員3、大きく伸びをして、

社員3　どうしよ、
社員1　え、
社員3　せっかくやし、もうちょっとでかいことするか。
社員1　でかいこと、
社員3　ぶっ壊す、
社員1　え、
社員3　金庫。
社員2　（笑って）本気ですか、
社員3　中の金全部持ってトンズラ。
社員1　壊せます、あんなん。
社員3　俺ら三人、横領の罪、全国指名手配。
社員2　三人分の人生投げ出すほどの金額入ってないでしょ、
社員3　な、
社員2　え、
社員3　やってみようか。
社員2　なんで、
社員3　な。

社員3、立ち上がり、使えそうな道具がないか室内を物色しはじめる。

社員2　そんな破滅的なんですか。
社員3　（笑う）

社員3、共用部だけでなく、ほかの社員のデスクのひきだしなどもどんどんあけてていく。

社員2　先輩、
社員1　怒られますよ、そんないろいろさわったら。
社員3　俺さあ、
社員1　え、
社員3　逆やってん。
社員1　なんですか、
社員3　ばち。

社員3、言いながら、誰かのデスクの脇に立てかけてあった百センチのステンレス製定規をふりかざす。

社員2　え、
社員3　会社から帰ったら消えてた、全部。
社員2　全部、
社員3　奥さんも、子どもも、家具も。全部。

社員1、社員2、なんとこたえていいか分からない。
社員3、消火器を持ちあげ、投げるふりをしながら、

社員３　ある日突然。

社員１、社員２、その行為に思わず笑ってしまう。

社員２　それはさすがにダメです。
社員３　（笑う）
社員１　え、なに先輩、
社員３　うん、
社員１　なんかしたんですか。
社員３　なんかって、
社員２　だから、たとえば、不倫とか。
社員３　ううん。
社員１　実はモラハラ、
社員３　たぶん、ちがう。たぶん。
社員２　ボーリョク、
社員３　するか。
社員１　え、なに、じゃあこころ当たりは、
社員３　ないよ。
社員２　あー、
社員３　全然ない。
社員１　でも、だって理由聞いたりはしたでしょ、
社員３　まあ、一応、
社員１　で、なんて、
社員３　いや、聞くには聞いてんけど、
社員１　なんですか。
社員３　正直さあ、
社員２　はい、
社員３　分かってないねんな、あれ。奥さんも。
社員２　理由、
社員３　うん。
社員１　そんなことあります、
社員３　（笑う）
社員１　いや笑ってる場合じゃなくて、
社員３　俺さあ、
社員１　はい、
社員３　こういうことってあんねんなあって思った、
社員２　こういうこと、

社員３、隅にたたまれていた古い段ボールを組み立てながら、

社員３　好きで好きでつき合って、結婚して、子どももできて、毎日おんなじ家で寝て起きて飯食って、一緒に。でも、ある日突然、もう話し合いの余地もないくらい、ばっさりと、ぶっつりと、おしまいになってしまうこと。
社員２　（なんと言っていいか分からない）
社員３　俺からしたらとんでもないよ、地球ひっくり返ったんか思った。そのくらい突然のできごとやったけど、
社員２　はい、
社員３　奥さんからしたらそうではなかなった、ずっと、それは起きていて、問題として進行していて、
社員２　かもしれないですね。
社員３　鈍感やったんやろうな、要するに俺は。そういう、女性の機微、みたいなのに。
社員１　女でも、
社員３　うん、
社員１　べつにみんながみんな、そんな一方的に関係ぶった切ったりするわけじゃないと思いますけど、
社員３　そっか、
社員１　はい。
社員３　ごめん、
社員１　（素直なごめんに面食らって）いや、まあ、
社員３　こういうとこかなあ、
社員１　え、

社員３　俺に足らんの、
社員１　足らん、足らんっていうか、
社員２　うん、

社員３、組み立てた段ボールを頭から被って、

社員３　俺はさあ、
社員２　はい、
社員３　まもりたかってん、ていうか、まもってたつもりやってん。
社員１　奥さんのこと、
社員３　理解してるつもりやった、
社員１　はい、
社員３　けど、それだけじゃあかんかった。
社員１　まあ、
社員３　どう思う、
社員１　え、
社員３　どっちこれ。
社員１　なにがですか。
社員３　愛するひとをまもりたい、頼りにされたい、君のまわりを、善いものあたかかいもので満たしたい、この俺が、そうしてあげたいっていうこれ、俺のこれはさ、
社員１　はい、
社員３　それはひとがもつ根源的な欲望なのかそれとも、
社員１　それとも。
社員３　後天的に与えられた、社会的な男らしさの暴走なのか、
社員１　（考え込んでしまう）
社員３　どっち。これどっち。
社員１　微妙な、
社員３　うん、
社員１　ところだと、思いますけど、正直、
社員３　うん、
社員２　あたし、
社員１　え、
社員２　あたしはさあ、
社員３　うん、
社員２　正直やなあ先輩、って思った。
社員３　なにそれ、
社員２　正直っていうか、いいひとすぎるなって。わるい意味で。

室内にのびるあかりが頼りない。
間。
社員３、おもむろに被っていた段ボールをとって、

社員３　やめてみた。
社員２　え、
社員３　だから。いいひと。
社員２　ああ、
社員３　うん。
社員２　あ、え、それでこれ？
社員３　そう。
社員１　短絡的。
社員３　どうせエゴにまみれた俺ならさ、
社員１　はい、
社員３　その通りのことやるまでよ。
社員１　（笑う）
社員３　だってこれ以上、
社員２　はい、
社員３　身を切ったら、なくなってまう。俺が。
社員２　そう、かもしれないですね。
社員３　なにをしたのか。
社員１　はい、
社員３　なにができなかったのか。
社員１　はい、

社員３　分からないまま。今も。ずっと。

間。

社員３　だからさ、
社員１　え、
社員３　これはチャンス。今日は、
社員１　それはどういう、
社員３　でっかいことしよう。
社員２　でっかい、
社員３　これまでのネコババとは訳がちがう。みんな明日朝来たら会社もぬけの殻。金庫ぶっ壊されてて、中、一銭も入ってない。
社員１　あほらし。
社員３　ほんで俺ら三人、全国指名手配。
社員２　指名手配されるほどの額入ってないですって、だから。
社員３　なにが欲しい、
社員１　え、
社員３　なに買う。大金手に入ったら、
社員１　特になにも欲しくないです。
社員３　これまでのは、
社員１　え、
社員３　これまでの分、どうしてたん、
社員１　いや普通に、貯金、とか。
社員２　え、
社員１　え。
社員２　使ってへんの。
社員１　うん。
社員３　一銭も、
社員１　はい、
社員２　今までずっと、
社員１　うん。
社員２　夢ないー。ていうか、変やろ、ネコババしたうえで貯えるってなに、
社員１　いいやん、べつに、
社員３　え、そっちは、
社員２　あたし、
社員３　うん、どういう目的、これ。なにに使ってんの。
社員２　いや、でもあたしも普通に生活費とか。
社員３　え、
社員２　え、だってちまちま使ってたらなくなりますよね、あのくらいの額、すぐ。
社員１　夢ないー、
社員２　誰が言うてんねん。
社員３　え、なんか欲しいとかそういうのじゃなく、やってたってこと、これ。
社員２　まあ、そうですね。暇やったし、
社員１　なにそれ、
社員２　このくらいイカれてないとサラリーマン続かへん。
社員１　（笑う）
社員３　俺、
社員２　え、
社員３　じゃあ俺だけか、大義名分があんの、
社員１　どういうことですか。
社員３　俺は、
社員２　はい、
社員３　先に当たった分、ばちが、
社員２　ああ、
社員３　それに見合うなにかを、どうしてもしたい。
社員１　（呆れて笑う）
社員３　横領の罪、全国指名手配。会社の有り金全部持って、どうしようもない日常からトンズラやって。
社員２　そんな夢のある金額は入ってないんですって、だから。
社員３　だって、どうせエゴにまみれた俺ならさ、

社員3、ステンレス製定規と、消火器と、段ボールを、
なんとかしていっぺんに持ち、

社員3　その通りのことやるまでよ。

社員3、言い切って、行ってしまう。
社員1、社員2、その様子を見ているほかしようがない。

社員2　え、
社員1　（笑う）
社員2　なにあれ本気、
社員1　さあ。
社員2　いいん、とめんで。
社員1　いいやろ。
社員2　ほんまに全国指名手配になったらどうすんねん、
社員1　そしたらあたし達がこれまでやった分もついでに罪被ってもらお。
社員2　うわ、
社員1　（笑う）
社員2　極悪。
社員1　このくらい非道じゃないとサラリーマン続かへん。

社員1、社員2、顔を見合わせて笑う。
間。
社員1、社員2、並んで社員3が去った方を眺めている。

社員2　あれさ、
社員1　え、
社員1　今日の。あれ。
社員1　ああ、うん、
社員2　あれ告白じゃないねん、
社員1　うん。え、
社員2　告白されたんじゃない。
社員1　そうなん、
社員2　ごめん、
社員1　いや、
社員2　嘘ついた。
社員1　べつに謝ることでもないやろ。
社員2　お嫁にいっちゃうんやあ、
社員1　え、
社員2　って言ってん。ほんまは。
社員1　うん、
社員2　お嫁さんになっちゃうん。さみしいなあって。
社員1　うん、
社員2　さみしすぎて、もう死にたくなっちゃうって、
社員1　へえ、
社員2　そう言ってん。ほんまは。
社員1　そうやったん。
社員2　うん、
社員1　そっか、
社員2　子どもできたって、
社員1　え、
社員2　うん、
社員1　言ったん、
社員2　うん。
社員1　なんで、
社員2　いや、あのひと、
社員1　うん、
社員2　来るたびにあたしにお肌綺麗ねって言うねんけど、
社員1　ああ、
社員2　うん、
社員1　それもそれで、
社員2　うん、きしょいねんけど、

社員１　だいぶきしょいよ。
社員２　なに最近めっちゃ綺麗なったやんって、
社員１　言われたん、
社員２　うん。
社員１　きしょ。
社員２　だから教えたげてん。女性ホルモンです、たぶんって、
社員１　それもどうかと思うけど。
社員２　おかあさんになる、じゃないねんな。
社員１　え、
社員２　お嫁さんになるって言ってん。
社員１　あいつ、
社員２　うん。
社員１　嫁って、
社員２　うん、
社員１　嫁なあ、
社員２　この時代にな、
社員１　うん。
社員２　あたしがさ、子どものこと愛せるかって、
社員１　え、
社員２　こんなあたしがガキなんかつくっていいんかって、
社員１　うん、
社員２　こんなにも、情けなくなるくらい、自分が、自分だけがいちばん大事なこのあたしが、母親になんかなれるんかって、
社員１　うん、
社員２　考えてるときに。
社員１　うん、
社員２　お嫁さんになっちゃうんや。さみしいなあって。
社員１　（こたえない）
社員２　でも、おめでとう、おめでとうなあって。
社員１　（こたえない）
社員２　おめでとうやで。
社員１　聞いてるよ、
社員２　どこがめでたいねん。こんな安月給の女と、借金まみれの男が、もうべつに好きでもなんでもない、だらだらつき合った挙句たまたま孕んで、その結果うまれてくる人間の、一体どこがめでたいねん。
社員１　（こたえない）
社員２　それこそばちやろ。こんな世の中に放り出されて、あたしらみたいなん親にもって。前世でどんだけわるいことしたねんな。そんな人間にむかって、おめでとうやで。
社員１　（こたえない）
社員２　死んだらいい。
社員１　え、
社員２　さみしくて死んじゃうなら、死んだらいい。
社員１　（こたえない）
社員２　告白じゃない。
社員１　そっか、
社員２　告白されたんじゃないねん。ほんまは。
社員１　うん、

間。
外からのあかりはもうほとんど届かない。

社員１　提案、
社員２　え、
社員１　これは提案やねんけど、
社員２　うん、
社員１　暮らしてみる、一緒に。
社員２　えっ、
社員１　あたしと。

間。
耳が痛いくらいに、静か。

社員１　借金ないよ。
社員２　うん、
社員１　貯金があるわ、むしろ。
社員２　ああ、
社員１　四年三ヶ月、
社員２　うん。
社員１　計五十一回、七百六十五万円。
社員２　うん、
社員１　一緒に。
社員２　え、
社員１　あんたと、一緒に、ちょろまかした分。
社員２　（笑う）
社員１　まあ、先輩もおったけど。
社員２　そうやな。
社員１　でも、あんたと、
社員２　え、
社員１　あんたと一緒に。したこと。
社員２　うん、
社員１　しょぼ。
社員２　え、
社員１　しょぼいな、こう考えたら。
社員２　一千万ないもんやねんな。
社員１　ほんまはな、
社員２　うん、
社員１　二億円です、どーんっ、とか、
社員２　なにそれ、
社員１　やりたい。
社員２　（笑う）
社員１　島とか、
社員２　島、
社員１　アイランド。

社員２　それは知ってる。
社員１　あげたい。
社員２　島を、
社員１　うん。
社員２　あたしに、
社員１　うん、
社員２　ちょっと持て余すかな。
社員１　あんたが子どもとふたりで、陽気に、平和に、暮らせる、
社員２　うん、
社員１　からだがちぎれるみたいに悲しいこととか、
社員２　うん、
社員１　頭真っ白になるくらい理不尽なこととか、
社員２　うん、
社員１　痛い、つらい、悔しい、苦しい、惨め、妬ましいとか、
社員２　うん、
社員１　そういうの全部から遠く離れた、なんかそういう島、
社員２　なにそれ、
社員１　それをな、
社員２　うん、
社員１　あげたい。
社員２　（こたえない）
社員１　あげたい。

社員２、社員１の方にむきなおり、じっとしている。
社員１、社員２をじっと見たまま動かない。
窓から闇が闖入する。
社員１、社員２、そこでじっと立ち尽くしている。
暗転。

〈2〉

真夜中とよぶにはかなりはやい。
夜がその本領を発揮するずっと前。
月が遠くに浮かんでいる。

ここは駅のそばにある児童公園。
彼氏、彼女、並んでベンチに腰かけ、駅から溢れて街に溶けるひとびとを眺めている。
彼氏、彼女、手には缶コーヒー。

彼女　仕事前にな、
彼氏　え、
彼女　仕事行く前、出勤前に、
彼氏　うん、
彼女　コメダ行くねん、最近。
彼氏　なんで。
彼女　え、朝ごはん。
彼氏　家で食べへんの。
彼女　食べるときもあるけど。
彼氏　リッチやな。
彼女　毎日じゃないで。
彼氏　ああ、
彼女　本読んだり、なんか書いたりしたいときだけ、
彼氏　行くん。
彼女　自分にご褒美のときはスタバ。
彼氏　それなんのちがい。
彼女　そこのコメダさあ、
彼氏　うん、
彼女　火曜に行くと絶対遭遇するカップルがおってな、
彼氏　若いん？
彼女　六十、あ、七十代、えー分からへん。
彼氏　それ夫婦っていうんじゃないの。
彼女　ううん、あれはカップル。だってあれ不倫やもん。
彼氏　そんなん見て分かる。
彼女　分かる分かる。
彼女　勘ぐりすぎじゃない。
彼女　いや、あれ見たら百人中百人が、あー不倫ですねって言うと思う。あれはね、あの女は正妻ちがう。
彼氏　いやいや、
彼女　だってな、今日これからどうするぅ、とか言ってんねんで。
彼氏　そんなん夫婦でも話すやろ。
彼女　ほんで六割五分くらいの確率でカラオケ行くねん。
彼氏　いいやん、べつに。
彼女　健全やねん。健全な不倫。
彼氏　そんなもんこの世に存在するか。
彼女　どう思う。
彼氏　なにが。
彼女　不倫でカラオケに行くカップルについて。
彼氏　べつに、
彼女　カラオケボックスでな、
彼氏　うん。
彼女　手握ったりすんのかな。
彼氏　知らん。
彼女　ちゅーくらいはするかな。
彼氏　さあ。
彼女　いとしのエリー、エリーの名前変えて歌ったりすんのかな。
彼氏　それ世代ちがうんじゃない。
彼女　なあ、
彼氏　え、
彼女　なあって。
彼氏　だからどうも思わんって、べつに。
彼女　いいよな。
彼氏　あ、そう。
彼女　羨ましい。

彼氏　なに、カラオケ行きたいの。
彼女　ちがうよ、
彼氏　うん、
彼女　ちがうやん。
彼氏　なに、
彼女　朝ごはん。
彼氏　え、
彼女　食べながらな、一緒に。
彼氏　うん、
彼女　その日のこと相談したりさあ、
彼氏　ああ、
彼女　贅沢やんな。不倫のくせに。
彼氏　そうかな。
彼女　だってしあわせやもん、朝ごはんって。
彼氏　へえ。
彼女　でも、ずるいな、あの女。
彼氏　え、
彼女　ずるいよ。
彼氏　あの女って、
彼女　エリーかっこ仮名。
彼氏　なんで。
彼女　寝てもないのに朝ごはん一緒に食べて。
彼氏　寝てへんの。
彼女　え、
彼氏　やってるやろ、普通に。クワタかっこ仮と。
彼女　だって六割五分やで、カラオケ。
彼氏　うん、
彼女　ホテル行って朝ごはんたべて、そっからカラオケ？
彼氏　知らんけど、
彼女　なにそのスケジュール。
彼氏　ほっといたれよ。
彼女　あ、待って。
彼氏　なに。
彼女　カラオケってなんかの隠語、もしかして。
彼氏　知らん、もう。
彼女　ふうん。
彼氏　うん、
彼女　そっかあ。
彼氏　なんやねん。
彼女　だって奥さんなにしてんねやろ、と思って。
彼氏　え、
彼女　ホテル行って朝ごはん食べてカラオケ行ってるあいだ。奥さんは。
彼氏　それさあ、
彼女　うん。
彼氏　歪んでると思うよ、お前、お前が。
彼女　なんで。
彼氏　夫婦やって、それ。そのふたり絶対。
彼女　そうかな。
彼氏　うん、
彼女　あんなにもしあわせな朝ごはんやのに？
彼氏　だから。
彼女　え、
彼氏　だから、やん。夫婦なの。
彼女　あほ。
彼氏　え、
彼女　あほやな、あんた。やっぱ。
彼氏　なんで。
彼女　知ってる、朝ごはんがしあわせなんは、恋してる相手と食べる場合のみやで。
彼氏　そんなことないやろ。
彼女　あるよ。
彼氏　ないやろ。
彼女　あるって。

彼氏　ないって。
彼女　恋してる相手とじゃない朝ごはんはただの食事やで。
彼氏　誰と食べても朝ごはんはただの食事や。
彼女　夜ごはん一緒に食べるより、朝ごはん一緒の方が勝った気がする。
彼氏　勝つ、
彼女　うん。
彼氏　誰に。
彼女　世界中の女。

間。
彼氏、手にしていた缶コーヒーを飲み干し、彼女が持っている空き缶も一緒にすこし離れたごみ箱に捨てに行く。

彼氏　してるやろ。
彼女　え、
彼氏　もしくはしてた。
彼女　なにが。
彼氏　恋。
彼女　うん、
彼氏　夫婦やねんから。そのふたり。

彼氏、戻ってくると、

彼女　行くなよ。
彼氏　え、
彼女　なに離れてんねん、勝手に。
彼氏　いや、ごみ。
彼女　連れてけよ、一緒に。
彼氏　なんで、
彼女　なんかあったらどうすんねん。
彼氏　すぐそこやん。
彼女　危ないやん、
彼氏　すぐそこやって。
彼女　こんな暗闇で、
彼氏　え、
彼女　一瞬でも離れて、

彼氏、彼女が座ったまま手を伸ばすので、手をひいて立ち上がらせてやる。

彼氏　うん、
彼女　二度と会えんかったらどうすんねん。
彼氏　なにそのこわいはなし。
彼女　なあ、
彼氏　うん。
彼女　どうする。
彼氏　うん、
彼女　これから。
彼氏　どうしたい、
彼女　うん、
彼氏　うん。
彼女　うーん、
彼氏　なに。
彼女　お尻痛い。硬いねん、ここ。
彼氏　歩く？
彼女　七時間十一分も、
彼氏　さすがに家までは無理やけど。
彼女　うん、
彼氏　とりあえず市外まで出て、
彼女　でも全線運転見合せやで。市外も。全部。
彼氏　だから、出て、
彼女　どうすんの。
彼氏　夜を明かす。

彼女　どうやって。
彼氏　あるやろ。なんか、二十四時間あいてる、なんか。
彼女　あ。
彼氏　え、
彼女　はい。はーい。
彼氏　なに。
彼女　ホテル。
彼氏　え、
彼女　ラブホ。
彼氏　いや、
彼女　いいやん、久しぶりに。
彼氏　なんでやねん。
彼女　おっきい鏡のある部屋がいい。
彼氏　（こたえない）
彼女　立ってバックで、鏡で見よう。
彼氏　（こたえない）
彼女　な。

彼女、彼氏の腕を自分の腰に巻きつける。
彼氏、なにもしない。
彼女、彼氏の股間を指でなぞる。
彼氏、なにもしないで彼女のことを見ている。
彼女、彼氏が反応しないので彼氏のものを指ではじき、

彼女　できひんの。
彼氏　うん。
彼女　恋した男はインポか。
彼氏　変態。
彼女　舐めたげよか。ここで。
彼氏　ド変態。
彼女　誰も見てへんよ。
彼氏　そういう問題じゃない。

彼女　真っ暗やし。
彼氏　そういう、
彼女　な。
彼氏　問題じゃないやん。
彼女　インポ。
彼氏　（こたえない）
彼女　インポ。
彼氏　呼ぶなよ、そんなんで。
彼女　そのひとには勃つ、
彼氏　え。
彼女　そのひとの裸には興奮する、
彼氏　（こたえない）
彼女　ちゃんと勃つ、勃っちゃう、
彼氏　（こたえない）
彼女　おっきめのおっぱいもう飽きたん、
彼氏　（こたえない）
彼女　それともほんまにあかんの、本物、
彼氏　（こたえない）
彼女　困るで、いざってとき。治しや。あ、てか、した？　もうした？　まだか。

彼氏、彼女の前に立って、彼女をじっと見ている。

彼女　下品。
彼氏　え。
彼女　にもほどがある。最低。趣味悪い、こんなん。
彼氏　（笑う）
彼女　まじで。
彼氏　自分で言うんや。
彼女　うん。

風が頬にあたる。

間。
彼氏、駅の方を見て、

彼氏　減ってきた、
彼女　え。
彼氏　ひと。
彼女　ああ、
彼氏　減ってきたで。
彼女　そうかな。
彼氏　どうすんの。
彼女　え、
彼氏　いいの、ずっとこんなとこおって。
彼女　だって、
彼氏　うん。
彼女　みんなどこ行ったん、あれ。
彼氏　さあ。
彼女　あんのかな、なんか。
彼氏　なんかって。
彼女　この近くで営業してる、なんか、
彼氏　カフェ的な、
彼女　ファミレス的な。
彼氏　行ってみる、
彼女　うん、
彼氏　うん、
彼女　行こうか、
彼氏　（笑う）
彼女　なに、
彼氏　その気なし。
彼女　だって、
彼氏　うん、
彼女　どこも一緒やろ、どうせ。真っ暗。
彼氏　行ってみな分からんやん。
彼女　なあ、
彼氏　うん。
彼女　歩いて帰ったんかな、みんな。
彼氏　さあ。
彼女　七時間十一分。
彼氏　どこまで帰んのか知らんけど。
彼女　無理やんな。
彼氏　まあ、
彼女　無理やと思う、あたし。
彼氏　そうやな。
彼女　根性あるんや、みんな。
彼氏　全部歩く必要はないんじゃない。
彼女　タクシー、
彼氏　とか。
彼女　このへん全然走ってへんやん。
彼氏　たまに通っても乗せてくれへんしな。
彼女　いいな。
彼氏　え、
彼女　みんな。決められて。どうするか。
彼氏　ああ、
彼女　な。
彼氏　そうやな。
彼女　あたしらは、
彼氏　うん。
彼女　てか、あたしか、
彼氏　うん、
彼女　こんなぐずぐずやのに。
彼氏　（笑う）
彼女　なあ、
彼氏　なに、
彼女　どうしよ。
彼氏　なにが。

彼女　このまま一生電車動かんかったら。
彼氏　動くやろ。
彼女　このまま一生、
彼氏　うん、
彼女　全部真っ暗やったら。
彼氏　そんなん、
彼女　死ぬまで。
彼氏　あるわけないやん。
彼女　死んでからも。
彼氏　え、
彼女　ずっと。もうだあれもおらへんのに。
彼氏　うん、
彼女　あたし達だけここにおったら。して。
彼氏　え、
彼女　想像。して。
彼氏　うん、
彼女　真っ暗で、
彼氏　うん。
彼女　今よりもっと真っ暗で、
彼氏　うん。
彼女　三分前と六時間後と今とが、一緒くたで。
彼氏　なにそれ、
彼女　分からんようになんねんな、
彼氏　なにが、
彼女　ずっとここにおるから。
彼氏　ああ。
彼女　え、してる、
彼氏　え、
彼女　想像。
彼氏　してるやん。
彼女　ちゃんとやで。
彼氏　分かったって、

彼女　十七時間前と二十八分後と今とが、
彼氏　一緒なんやろ。
彼女　ほんでな、
彼氏　うん、
彼女　ひとは来るねん。
彼氏　駅やからな。
彼女　ちがう、朝になるから。
彼氏　さっき真っ暗言うたやん。
彼女　朝になるとひとが来る。どこ行くんか知らんけど。
彼氏　会社とかじゃないの、朝に来るひと達は、
彼女　日常がとっくに再開して、
彼氏　夜勤明けのひとは家帰んねんな。
彼女　それでもずっとここにおったら。
彼氏　うん、
彼女　な。
彼氏　いいんじゃない、
彼女　え、
彼氏　いいやん、べつに。
彼女　なにが、
彼氏　まざらんで。そんな日常に。
彼女　ああ、
彼氏　うん、
彼女　どうやろ、
彼氏　カラオケはさ、
彼女　え、
彼氏　カラオケ。
彼女　うん、
彼氏　それこそ特権やろ。恋してるやつらの。
彼女　なんで、
彼氏　日常と関係ないとこに閉じこもってられんねやから。
彼女　ふたりっきりでな、
彼氏　そりゃハイにもなるわ。

彼女　（笑う）
彼氏　エリーの名前変えたくもなるって。
彼女　うん、
彼氏　放りだされること。
彼女　え、
彼氏　埒の外に。
彼女　埒、
彼氏　道理の外。放りだされること。
彼女　うん、
彼氏　恋。
彼女　恋、
彼氏　ここではないどこかに、からだごとぶん投げられること。
彼女　うん、
彼氏　気づいたら、
彼女　なに、
彼氏　誰も手がだせないところいて、俺は、
彼女　うん、
彼氏　自分でも。恋してる相手も。誰もさわることができない、
彼女　うん、
彼氏　それでも、そこに身をおくこと。
彼女　うん、
彼氏　それが恋。
彼女　そう。
彼氏　それが今。
彼女　うん、
彼氏　今の俺。
彼女　（こたえない）
彼氏　恋。
彼女　もういい。
彼氏　恋してる状態。それが。俺にとっての。
彼女　もう、いい。
彼氏　（言うのをやめる）
彼女　誰もさわることができない、
彼氏　うん。
彼女　あたしが、ここにいても？

どうしようもなく、間。
風が頬に痛い。

彼女　ただの食事かあ。
彼氏　え、
彼女　誰と食べても。

彼女、彼氏の前に立ち、抱擁を求めるかっこうをする。

彼氏　すしざんまい？
彼女　ちがう。
彼氏　じゃあなに。
彼女　して。
彼氏　なにを。
彼女　ぎゅって。
彼氏　なんで。
彼女　して。
彼氏　なんやねん。急に。
彼女　性的じゃないやつ。
彼氏　なにそれ、
彼女　熱い、
彼氏　うん、
彼女　目がさめるような、
彼氏　注文が多い。
彼女　ぎゅって、
彼氏　だからなんで。
彼女　同志やから。
彼氏　（笑う）

彼女　はやく、
彼氏　（こたえない）
彼女　はやく。

しばし間。
彼氏、彼女の方へ歩き出す。
風。息ができない。
彼女、彼氏の肩越しに、

彼女　あ。

彼氏、歩くのをやめ、

彼氏　え、
彼女　あれ、
彼氏　なに。
彼女　エリー。
彼氏　知り合い、
彼女　エリー。
彼氏　知り合いなん。
彼女　かっこ仮。
彼氏　え、
彼女　コメダエリー。
彼氏　誰やねん。
彼女　かっこ仮。エリー。
彼氏　あ、あー。え、まじで、どれ。
彼女　あれ。
彼氏　え、まじで。
彼女　いや分からん。ちがうかな。
彼氏　ちがうやろ。
彼女　でもめっちゃ似てる。
彼氏　あ、そう。
彼女　近くで見てきていい、
彼氏　あほ。やめとけ。
彼女　だって、
彼氏　別人やって。
彼女　ほら、あれ。
彼氏　じろじろ見すぎ。
彼女　エリー、
彼氏　なあ、
彼女　うん、
彼氏　ちょっと。
彼女　うん、
彼氏　ある程度としいったおばはん全員一緒に見えるやん。
彼女　あれ、
彼氏　なあ、
彼女　喪服かな。
彼氏　え。
彼女　あれ。
彼氏　ただのワンピースやろ。
彼女　喪服じゃない、あれ。
彼氏　知らん、もう。
彼女　だって、ほらバッグとか。
彼氏　ああいうおばはん、よう分からんけどああいうちっさいか
ばん持つやん、なんか。
彼女　喪服やと思う、あたし。
彼氏　あ、そう。
彼女　絶対そうやで。
彼氏　ちょっともう、じろじろ見すぎやって、まじで。なあ。
彼女　死んだ。
彼氏　え、
彼女　死んだ。
彼氏　なに、
彼女　今。

彼氏　今？
彼女　死んだんかな。
彼氏　さあ、
彼女　あいつ、
彼氏　言い方。
彼女　だって名前知らんもん。
彼氏　エリー、
彼女　は、おばはんの方やから。おるから、あそこ。
彼氏　そうか。
彼女　死んだんかな。
彼氏　知らん。
彼女　なあ、
彼氏　知らんよ。
彼女　だから会いにいくんかな。
彼氏　別人やろ。
彼女　それともうもう会ってきたんかな。
彼氏　（こたえない）
彼女　なあ、
彼氏　うん。
彼女　どう思う、
彼氏　どうって、
彼女　コメダ。
彼氏　え、
彼女　来えへんのかな、もう。
彼氏　ああ、
彼女　見ることないんかな、もう、あのふたり。
彼氏　（こたえない）

彼女、薄闇の中、じっと一点を見つめている。
じっと、じーっと。
彼女が見つめる、そこは真っ暗で、今よりもっと真っ暗で、三分前と六時間後と今とが、一緒くたで。

十七時間前と二十八分後と今とが、一緒くたで。
話したい今と、話さなければならない今とを内包してなお余りある、悠久の静寂である。

彼女　エリー。エ リ ー。

じっと一点を見つめていた彼女、はっとする。
輪郭をもたない、はっきりと知覚できないなにかを見た気がして。なにかが自分に、もたらされた気がして。
彼氏の姿は、もう彼女には見えない。

彼氏（声）　あっ、
彼女　え、
彼氏（声）　待って、これ、

あたりにアナウンスがあたりに響く。
運転再開を知らせるのか、それともほかのなにか。
駅の周辺にいたひとびとがふたたび集まってくる気配。

彼氏（声）　駅、駅からやんな、これ。
彼女　なに、
彼氏（声）　俺ちょっと見てこよか、
彼女　え、
彼氏（声）　駅。運転再開したんかもしれへん。
彼女　うそお、
彼氏（声）　あ、ほら見て。
彼女　なに、
彼氏（声）　ほらあっち、だいぶ遠いけど、
彼女　え、どこ、

彼氏、きっとどこかを指さしているのだろう。
しかし彼女、彼氏の姿も彼氏が指さす先も見ることがで

きない。

彼氏（声）　なあ見てって、あっちの方。あれ看板やんな？　ちがう？　ほら、パチンコ屋。復旧したやろ、たぶんこれ、なあ。

彼女　え、なにどこ。どこのこと言ってる、

彼氏（声）　あーでもすぐ乗んのやめとこか、電車。なあ、だってほら見て、

彼女　え、

彼氏（声）　見てほら、すごいひと。これみんな今までどこおったん。ちょっとずらして電車乗ろうか。いいやろ、べつに。ゆっくり帰るんで。なあ、

アナウンスと喧騒が次第に大きくなり、
彼女、彼氏の声も聞きとれなくなっていく。

彼女　え、なに、待ってごめん、全然聞こえへんねんけど、

大きくなっていくアナウンスと喧騒のせいで、彼女、自分の声さえ聞こえない。

彼女　なあ、え、ちょっと。

あらゆる音が鼓膜から溢れるほど高まった、
そのとき、
彼女、ふいに諒解する。
あたりはふたたび、もとの静けさ。
懐かしくさえある、児童公園の湿った夜。
間。

彼女　なあ。なあ、聞こえる、

（間）

いいよ。うん、いい。別れてもいい。してきたらいいよ、恋。それ以外のことも。いっぱい。してきたらいい。埒の外に出てっても、

（間）

帰ってこられたらいいな、そのひとと。ふたりで。あんたと、そのひとと、今は恋でも、折り返して。日常に。帰ってこられたら。

（間）

あたし、あたしはまだここにいる。ここに。もうちょっと。誰もさわることができなくても。誰にもさわってもらえなくても。あたしはここで、おぼえてるから。

彼女、ふと遠くを見て、なにかに応えるように大きく手をふる。
暗転。

〈3〉

真夜中とよぶにはまだはやい。
夜はいつまでたってもその本領を発揮しない。
月が見ている。

ここはインターネットカフェの前。
自動ドアが半分ひらいた状態で止まっている。
老婆、地面に落ちているしけもくを探している。
店員、やってきて、

店員　すみません、
老婆　（しけもくを探している）
店員　あの、
老婆　（しけもくを探している）
店員　すみません。
老婆　（しけもくを見つける）

夜の途方もない静けさに頬を撫でられる。
間。

店員　おそれいります。（強く）お客様、
老婆　（拾ったしけもくを点検する）
店員　よろしいですか、
老婆　（点検を終えたしけもくを手にしているビニル袋に仕舞う）

店員、力いっぱい舌打ちをする。

店員　おそれいります。当店ご利用いただいております、
老婆　（ふたたびしけもくを探しはじめる）
店員　お客様全員にお声かけさせていただいてるんですけれども、
老婆　（こたえない）
店員　先ほど本社の方から連絡がありまして、
老婆　（しけもくを探すが、暗くてよく見えない）
店員　日付変わって明日の営業が、

老婆、離れたところになにかを見つけ、拾いに行く。
店員、喋りながらあとを追う。

店員　このままでは難しいということになりまして、
老婆　（見つけたなにかは石ころだった）
店員　ご利用いただいておりますお客様には大変ご迷惑をおかけ、

老婆、離れたところになにかを見つけ、店員を押しのけるようにして拾いに行く。
店員、老婆に触れられた気がしてちょっと不快。

店員　（気をとりなおして）けしますが、
老婆　（見つけたなにかは地面にこびりついた汚れだった）
店員　ご理解ご協力いただきますようお願いいたします。
老婆　（地面を足でこする）
店員　それで、大変お手数なんですけれども、
老婆　（顔をあげ、急な大声で）あ、

店員、ぎょっとして待つが、続かないようなので気をとりなおして、

店員　ブース内に置かれておりますお荷物の、

老婆、手もとをいじくって、

老婆　ん、

老婆、ビニル袋を店員にさし出す。
ビニル袋は、大量のしけもくとそれについていたゴミと

で茶色く濁っている。

老婆　いいよ。
店員　え。
老婆　好きなん、とり。
店員　（さし出されたビニル袋に動揺するも）お荷物の、
老婆　（ビニル袋の中に手をつっ込んで中をかき回し）
店員　ご移動をお願いしておりまして、
老婆　長いのんとり。

無数の誰かが吸い終えたたばこのにおいが、夜の湿気にのって鼻腔に届く。
それは懐かしいような。目の前を暗くするような。

店員　なにぶん店内通常時よりかなり暗くなっておりますが、
老婆　このへん、
店員　盗難、紛失、破損防止の観点から、
老婆　いいやつや。このへん。
店員　ブース内のお荷物はすべてお客様ご自身で、
老婆　な。

老婆、ふたたび店員にビニル袋をさし出す。
店員、黙殺して、

店員　ご移動していただくようお願いしておりまして、
老婆　（ビニル袋を顔の近くで振って）見て。
店員　誠に勝手ではございますが、
老婆　（中の一本をさし）セーラム。
店員　本日二十三時五十九分をもちまして、
老婆　最近吸ってるひとあんま見いひんな、これ。
店員　一時閉店とさせていただきますので、
老婆　なんで？

店員　閉店後、
老婆　（笑う）
店員　店内に置かれております、
老婆　これにしよか。な。
店員　お荷物に関しましては、
老婆　（急な大声で）はたち。
店員　えっ、
老婆　（たしかめるための）え、
店員　（ぽかんとしている）
老婆　ほんならしゃあないな。

どうしようもない、間。
老婆、退屈してちょっと移動する。
店員、嫌味のようにあとを追う。
老婆、そこで腰をおろす。
店員、力いっぱい舌打ちをして、

店員　閉店後、
老婆　（ぎりぎりおちょくっていない程度の）え？
店員　閉店後。ブース内にありますお荷物は、
老婆　（ビニル袋に手をつっ込んで）
店員　お忘れ物という扱いになりまして、
老婆　（中から一本とり出し、くわえてから）
店員　本社での保管となりますので、お引き取りの際、
老婆　（ライターを探す）
店員　運転免許証、パスポート、マイナンバーカード等、
老婆　（が、見つからない）
店員　ご本人様確認のできます身分証明書が、
老婆　（ライターを見つけ出し、火をつける）
店員　必要となりますのでご注意ください。
老婆　（煙をはき出し）あんた、
店員　（こたえない）

老婆　喋んのじょうずやな。
店員　（こたえない）
老婆　将来アナウンサーか、
店員　（こたえない）
老婆　（笑う）
店員　で、ご精算に関してなんですけれども、
老婆　でもあれ、
店員　ただいまレジも動かないため、
老婆　しょうもないで、今の女子アナ。
店員　ご入店時間の記録が確認できない状態、でして、
老婆　上品ぶったグラビアアイドルやろ、
店員　ですが、
老婆　あれ、そもそも。なあ、
店員　（ちょっと考えて）でして、
老婆　思わへん、
店員　長期ご利用のお客様に関しましては、
老婆　昔は野球選手の嫁はんなんのがアレやったけど、
店員　本日ご利用分に関しましては、
老婆　このごろそのへんの芸人とかと結婚しよんな、あれ、
店員　平日お昼のパック料金、
老婆　（場ちがいな声量で）夢のうなった。
店員　（びっくりする）
老婆　（大声のまま）貧乏なったわ、ニッポン。
店員　（老婆が言っていることはもちろん分からないし、自分がどこまで喋ったかも分からなくなる）
老婆　（もとのトーンで）せやけどな、考えてみたらこれ、
店員　えーパック、あの、パック料金適用ということで、
老婆　大変なんは男よ、
店員　本日お支払いの際に手書きの領収書を、
老婆　男。おとこのこ。
店員　（ペースをとり戻せないまま）えーあの、（考える）
老婆　家事育児、今は男も当たり前にせんならん、
店員　発行しますんで、
老婆　でもようできんやろ、あんなん、
店員　領収書。あのー、
老婆　弱いから。根性ないから。
店員　後日そちらと、
老婆　自分の世話さえようせえへん。
店員　会員証と併せて、
老婆　会社は会社で好きなこと言うしな。
店員　併せて持ってきていただきますと、
老婆　育休とれよ、成績あげろ、エスディージーズ、
店員　ポイント加算させていただきますので、
老婆　成績あげな会社潰れんで言われて真に受けて、
店員　ですので、えー、
老婆　弱いやろ。男。
店員　ブース内のお荷物と、
老婆　立場なけな、よう喋らん。
店員　ご精算をお願いいたします。
老婆　徒党組まなおしっこも行かれへん。
店員　（もう言うことがない）
老婆　（だめ押しのような）ちがうか？

吐息のように湿った空気。
間。

老婆　ハゲめがね、
店員　え、
老婆　ハゲめがねはどうしたねん。店長やろ、あれ。
店員　（ちょっと笑ってしまう）
老婆　な。
店員　（こたえない）
老婆　自分で言いに来いや。なあ。
店員　（こたえない）

老婆　あんた、
店員　え、
老婆　あんたも。なんで嫌や言わへんの。
店員　（こたえない）
老婆　わざわざ外まで追っかけてきてから。ほんま。

ふたたび、間。
老婆、ポケットに手をつっ込んで、中にあった千円札を
店員につき出す。
店員、受けとらず、

店員　お会計、受付の方でお願いいたします。
老婆　（千円札を出したまま）
店員　平日お昼のパック料金なんですけれども、
老婆　（千円札を出したまま）
店員　おそれいります、
老婆　（千円札を出したまま）
店員　税別千七百六十円になっておりまして。

老婆、店員、おたがいをじっと見る。
間。
老婆、千円札をビニル袋の中に放る。

老婆　ないやろ、
店員　え、
老婆　ないやろ。払わんかったこと。
店員　（こたえない）
老婆　これまで。一回も。
店員　（こたえない）
老婆　え？　ないやろ。
店員　（わずかにうなずく）
老婆　馬鹿にしてんの。

店員　え。
老婆　馬鹿にしてんのんか、
店員　（こたえない）
老婆　あんたも。
店員　（こたえに困ってしまう）

しばし、間。
老婆、ビニル袋の中のしけもくを選るように、一本一本
さわっていく。

老婆　お金、
店員　はい、
老婆　お金のことはな、
店員　（こたえない）
老婆　ちゃんとせなかあかん、言うて、
店員　（こたえない）
老婆　それだけは、言うて、
店員　（こたえない）
老婆　あとはなんでもいい、
店員　（こたえない）
老婆　ちゃらんぽらんでも薄情でも構わんわ、
店員　（こたえない）
老婆　せやけど、お金のことだけはな、
店員　（こたえない）
老婆　ちゃんとせなあかん、言うて、
店員　（こたえない）
老婆　お金はお金でしかないけど、
店員　（こたえない）
老婆　複雑やし、いろんなしがらみがくっつくしな、
店員　（こたえない）
老婆　気持ちよく、できるだけきれいに扱えば、
店員　（こたえない）

老婆　愛想なしのちゃらんぽらんの薄情もんでも、
店員　（こたえない）
老婆　ちゃんとやってけんねやからな、言うて、
店員　（こたえない）
老婆　なあ、
店員　（こたえない）
老婆　（どこかにむかって大声で）お前何様のつもりじゃぼけ。
店員　（びっくりする）
老婆　（大声のまま）お前そんな偉いんか。あ？　払ろてるやろが。いっつも。ちがうか？　なあ、
店員　（自分にむけられた言葉ではないので当然こたえる気にはならないし、かといってどうすることもできないので、声が発射された方をなんとなく見る）
老婆　（大声のまま）なあ、こら、なに見とんねん。言いたいことあんねやったら言わんかい。ここで、言うてみろよ、あ？
店員　（その場にただ立っているほか、しようがない）
老婆　（大声のまま）偉そうに。ひとりで大きなったみたいな顔してな。お前の顔じゃ、それ、こっち見んかい、見てみんかい、あ？　ひとのこと見下して、お前いったい何様になったんじゃ。あ？　往ね。とっとと往にさらせ、ぼけ。

夜はじゅうぶんに深く、あたりにひと気はない。
罵詈は闇にのみ込まれ、あとにはなにも残らない。
間。
店員、ちいさなあくびをひとつする。

老婆　（もとのトーンで）大学生、
店員　え、
老婆　あんた。
店員　（こたえない）
老婆　（待っている）
店員　（こたえない）
老婆　（待っている）
店員　（圧に負けて）まあ、
老婆　せやろ。
店員　（こたえたことを後悔する）
老婆　見たら分かるわ、な。
店員　（こたえない）
老婆　学校いって、ほんでアルバイト、
店員　（こたえない）
老婆　このへんやったらあれ、
店員　（こたえない）
老婆　女子大、そこの。
店員　（こたえない）
老婆　なあ、
店員　（こたえない）
老婆　坂の上んとこ。
店員　（こたえない）
老婆　（様子をうかがう）
店員　（こたえない）
老婆　な、
店員　いや普通に、
老婆　せやろ。
店員　個人情報なんで。
老婆　ええな。
店員　（こたえない）
老婆　あそこ。あの学校。
店員　（こたえない）
老婆　夕方なったら、
店員　（こたえない）
老婆　学生らな、ぞろぞろっと、
店員　（こたえない）
老婆　こう、みんな帰んねやな、あれ、
店員　（こたえない）

老婆　バッグ持って、カーディガン着てな、
店員　（こたえない）
老婆　みんなでぞろぞろっと、
店員　（こたえない）
老婆　誰と誰が友だちか分からんくらいみんなキャイキャイして、

濃い闇に鮮やかな女子学生の群れが見える。
しばし間。

老婆　楽しいねやろな、
店員　（こたえない）
老婆　な。
店員　（こたえない）
老婆　お昼は食堂で食べて、
店員　（こたえない）
老婆　テストのときはノート貸したり借りたりして、
店員　（こたえない）
老婆　アルバイトいってな、
店員　（こたえない）
老婆　（顔を覗きこむように）な。
店員　（露骨に顔をそむける）
老婆　楽しいな。
店員　（こたえない）
老婆　あたし、
店員　（こたえない）
老婆　あたしもな。
店員　（こたえない）
老婆　ほんまはいくんやったねんで。
店員　（こたえない）
老婆　学校。
店員　（老婆をちょっと見る）
老婆　女子大はちょっと無理やけど、
店員　（こたえない）
老婆　計算。いつも一番やったしな。
店員　（こたえない）
老婆　ほかの教科もまあ、
店員　（こたえない）
老婆　そら、誰彼言うてまわるほどではないけどやな、
店員　（こたえない）
老婆　でも、あんたは大丈夫でしょう、言うて、
店員　（こたえない）
老婆　先生お墨つきあげるわ、言うて。
店員　（こたえない）
老婆　な。
店員　（こたえない）
老婆　先生、お墨つきあげます、言うて、
店員　（こたえない）
老婆　ほんでも、うち、あんなんやし。
店員　（こたえない）
老婆　あんなんやったやろ。
店員　（こたえない）
老婆　お父ちゃん、あれ昔のひとやから、
店員　（こたえない）
老婆　女勉強せんでいい、言うて、
店員　（こたえない）
老婆　従業員おんねん、下請けも、その下も、
店員　（こたえない）
老婆　そいつらの生活お前どうすんねや、言うて、
店員　（こたえない）
老婆　ほかにもきょうだいおったしな、
店員　（こたえない）
老婆　ほんでまたこれ、そっちの方がよう出来たから。
店員　（こたえない）
老婆　あれ、根が真面目やし、なんでもかんでも、ハイ、言うて、

店員　（こたえない）
老婆　どこいっても可愛がられてな、
店員　（こたえない）
老婆　（笑う）せやけどあたし、
店員　（こたえない）
老婆　あたしは、ほら、

老婆、ふっと口をつぐむ。
間。

老婆　いいの。
店員　え、
老婆　あんた。
店員　（老婆を見る）
老婆　戻らんで。
店員　（そのまま老婆をじっと見る）
老婆　こんなとこつっ立ってから。ほんま。
店員　（こたえない）
老婆　な。

老婆、ビニル袋からしけもくを一本選んで出し、店員の気をひくようにビニル袋を振ってみせる。

店員　いや普通に、
老婆　（しけもくに火をつける）
店員　仕事中なんで。

老婆、しけもくが短く鼻先が燃えそうになるので、からだじゅうを叩いてたばこの箱を探し、店員にさし出す。
店員、持ってんねやんけ、とつい笑ってしまう。
店員、箱から一本たばこをとり、老婆のライターを借りて火をつける。

老婆　はたち、
店員　（こたえない）

老婆、箱から一本たばこをとり、火をつける。
ふたり、夜に染まった街をぼんやり見ている。
遠くで車のクラクション。

老婆　冗談、
店員　え、
老婆　みたいやな。
店員　（意味が分からず、老婆を見ている）
老婆　（顎をもちあげてこの様子を示す）
店員　ああ、
老婆　（こたえない）
店員　ていうか、
老婆　（こたえない）
店員　なんか、
老婆　（こたえない）
店員　人生みたい。
老婆　（ちょっと驚いて店員の方をむく）
店員　（言ったことを後悔する）

しばし間。

老婆　真面目。
店員　え、
老婆　あんた。
店員　（こたえない）
老婆　真面目やわな。
店員　（こたえない）
老婆　あんた。

店員　（こたえない）
老婆　いっつも。
店員　（こたえない）
老婆　自分で思わへん？
店員　（こたえない）
老婆　（店員のこたえを気にするでもなく、好きにしている）
店員　（思いきって）べつに、
老婆　（こたえない）
店員　真面目、っていうか、
老婆　（こたえない）
店員　ただのバイトやし。
老婆　（こたえない）
店員　社員さんとかの方が仕事できるし、普通に。でも、
老婆　（こたえない）
店員　これで時給もらってるわけやし、
老婆　（こたえない）
店員　なんか、べつに、
老婆　（こたえない）
店員　中戻ってもすることないし、
老婆　（こたえない）
店員　だってこんなんはじめてやし。みんなそうやろうけど。
老婆　（こたえない）
店員　あんま役立てへんし、あたし、
老婆　ばばあ、
店員　え、
老婆　逃げへんように見張っとけってか、
店員　（こたえない）
老婆　な。
店員　（こたえない）
老婆　ハゲめがね。
店員　（ちょっと笑ってしまう）
老婆　自分で言いにこんかい、

店員　（こたえない）
老婆　なあ。
店員　（こたえない）
老婆　あんた、
店員　（こたえない）
老婆　あんた。ええようにつかわれなさんなや。
店員　（考えながら）つか、
老婆　（こたえない）
店員　われるっていうか、
老婆　（こたえない）
店員　仕事なんで、一応。
老婆　（こたえない）
店員　バイトやけど、ただの。

老婆、短くなったたばこを踏み、火が消えたのをたしかめてビニル袋に放る。

老婆　なに、
店員　え、
老婆　どかさんならんの？
店員　（こたえない）
老婆　あれ。
店員　（こたえない）
老婆　全部？
店員　（うなずく）
老婆　全部、
店員　（こたえない）
老婆　あれ。
店員　だから、
老婆　ぜんぶ？
店員　閉店なんで。
老婆　ぜんぶ、

店員　臨時ですけど。
老婆　（こたえない）
店員　お客さん、
老婆　全部、
店員　もの多い方やから。
老婆　（こたえない）
店員　大変かもですけど。

老婆、じっと前を見ている。
蔓延る夜がすべての輪郭を曖昧にする。
しばし間。

老婆　前、
店員　（こたえない）
老婆　前にも、
店員　（こたえない）
老婆　あったなあ。こんなん。
店員　（こたえない）
老婆　前にも。
店員　前、
老婆　（うなずく）
店員　災害、
老婆　（こたえない）
店員　とかですか。それは。
老婆　前にも、
店員　（こたえない）
老婆　こんなん、
店員　（こたえない）
老婆　あたし、
店員　（こたえない）
老婆　こんなんやろ、
店員　（こたえない）
老婆　あたし。ずっと。
店員　（こたえない）
老婆　もうずっとこんなんやから、
店員　（こたえない）
老婆　あたし。何年も。
店員　（こたえない）
老婆　どうやって調べたんか知らん、
店員　（こたえない）
老婆　来てな。
店員　（こたえない）
老婆　うん、来て。
店員　（こたえない）
老婆　あれは、ようできたから、
店員　（こたえない）
老婆　大人んなっても。
店員　（こたえない）
老婆　どこいっても可愛がられて。
店員　（こたえない）
老婆　なんでもかんでも、ハイ、言うて。
店員　（こたえない）
老婆　来てん。来たんや。ほんで、
店員　（こたえない）
老婆　お前なにしてんねや、言うて、
店員　（こたえない）
老婆　こんなとこで、ずうっとなにしてんねや、言うて、
店員　（こたえない）
老婆　お前こんなもん、あれやないか、言うて、
店員　（なにも言わない）
老婆　こんなもんお前、あれ、
店員　（なにも言わない）
老婆　（言えない）
店員　（なにも言わない）

老婆　情けないわ、言うて、
店員　（こたえない）
老婆　恥ずかしいわ、言うて、
店員　（こたえない）
老婆　お前そんなことしてるんやったら、あれ、
店員　（こたえない）
老婆　な、そんなことしてるんやったら、もうお前、
店員　（こたえない）
老婆　お前、もう、

老婆、ふっと口をつぐむ。
店員、指が燃えるほど短くなったたばこをどうにもできず、ただ持っている。
間。

老婆　どかさんならんの？
店員　（こたえない）
老婆　あれ。
店員　（こたえない）
老婆　全部。
店員　ご迷惑、
老婆　（こたえない）
店員　おかけしますが。
老婆　（こたえない）
店員　ご協力お願いします。

老婆、店員、なにも言えず、したがって、ふたたび、間。

店員　あの、
老婆　（店員をちょっと見る）
店員　楽しくなかったです、
老婆　（こたえない）
店員　よ。ちなみに。学校。
老婆　学校、
店員　（こたえない）
老婆　いってんの。
店員　辞めてきたんです、
老婆　（こたえない）
店員　今日。
老婆　（こたえない）
店員　こんな日に、
老婆　（こたえない）
店員　こんなことなるなんて思ってなかったけど。
老婆　（こたえない）
店員　なんか、人生の暗示か、今後の、とか、
老婆　（こたえない）
店員　思うけど。
老婆　（こたえない）
店員　（どう言おうか考えている）
老婆　（黙っている）
店員　学校には、てか大学ですけど、
老婆　（こたえない）
店員　女子大。そこの。
老婆　（こたえない）
店員　頭のいい人はね、
老婆　（こたえない）
店員　いなかったです。まじで。
老婆　（こたえない）
店員　べつに馬鹿、
老婆　（こたえない）
店員　っていうんじゃないけど、なんか、
老婆　（こたえない）
店員　脳みそ空っぽやのに、考えることだけしてる、みたいな、
老婆　（こたえない）

店員　そんなんばっかでした。
老婆　（こたえない）
店員　中身ないのに、意味だけ考えてる、みたいな。
老婆　（こたえない）
店員　そんなひとばっかりで。
老婆　（こたえない）
店員　先生も。もちろん生徒も。
老婆　（こたえない）
店員　なんていうか、
老婆　（こたえない）
店員　やばいと思った。
老婆　（こたえない）
店員　このままやったら。
老婆　（こたえない）
店員　怖いと思った。
老婆　（こたえない）
店員　学食も、期末試験も、お洒落してサークルも、
老婆　（こたえない）
店員　このまま、こんなとこで、
老婆　（こたえない）
店員　こんなことしてるのが、なんか。
老婆　（こたえない）
店員　あたし、
老婆　（こたえない）
店員　あたしは、べつに認められたいひととかおらんし、
老婆　（こたえない）
店員　あんまそんなん、分からんし、
老婆　（こたえない）
店員　でもみんな、
老婆　（こたえない）
店員　自分を認めるくらい価値のある誰かを探してるだけで。
老婆　（こたえない）
店員　みんな。
老婆　（こたえない）
店員　こんなところにおるくらいなら、
老婆　（こたえない）
店員　さっさと働いた方がいいやんって、
老婆　（こたえない）
店員　さっさと世の中に出る方が、
老婆　（こたえない）
店員　なんていうか、
老婆　（こたえない）
店員　ただしい、って、
老婆　（こたえない）
店員　なったんですけど、まあ正直、
老婆　（こたえない）
店員　あたしとか、今子どもすくないから大学いけただけで、
老婆　（こたえない）
店員　普通に勉強嫌いやし、
老婆　（こたえない）
店員　でも、こんな日かって、
老婆　（こたえない）
店員　よりによってこんな日かって。
老婆　（こたえない）
店員　思うくらいには、なんか、今、（その先を言えない）
老婆　（こたえない）
店員　ね。
老婆　（こたえない）
店員　でも、（言いよどむが、）
老婆　（こたえない）
店員　わるいことはしてない、
老婆　（こたえない）
店員　から。誰も。
老婆　（こたえない）

店員　分岐点、
老婆　（こたえない）
店員　みたいななにかが、どっかにあったとしても、
老婆　（こたえない）
店員　今のあたしには一本道やし、
老婆　（こたえない）
店員　手放した方を思って、
老婆　（こたえない）
店員　わけもないのにかなしいのは、
老婆　（こたえない）
店員　いつでもなんでも、そうやけど。

老婆、ビニル袋の中のしけもくを選るように、一本一本さわっていく。
店員、その様子を見ている。
しばし間。
店員、持ったままになっていた吸い殻を投げ捨てる。

店員　行きます。
老婆　（こたえない）
店員　ハゲめがねが受付で待ってると思うんで。
老婆　（こたえない）
店員　ご利用ありがとうございました。
老婆　（こたえない）
店員　またのご来店お待ちしております。

店員、角度三十度のお辞儀。
店員、行ってしまう。
老婆、ひとり、手もとのビニル袋をいじくっている。
間。
老婆、ふいに顔をあげ、あたりを見まわす。
街は混沌を腹にかかえてじっとうずくまっている。

老婆、呆けたように虚空の、どこか一点をじっと見ているが、やがてあきらめて。
老婆、ビニル袋からしけもくをとり出し、火をつける。
頼りない煙が一瞬のびてすぐに消える。
老婆、すぐにもう一本とり出し、火をつける。
口をすぼめて、吸う。
闇の薄皮を剥ぐように、

老婆　死んだ。
死んだ。
今、
死んだかな。
あたし。
あたし、（笑う）
死んだかな、今。

老婆、吸い殻を投げ捨てる。
老婆、ゆっくりと歩き出す。

塗りこめられた夜はいよいよ濃く。
しかし、真夜中とよぶには、まだはやい。

終